



EXtra, EXpert and EXtreme EXPRESS--

2009 Vol.

3



Photo by H.Wakita/Y.Sato(c)

山口辰也がコースレコードを更新! 得意のオートポリスでポールポジションを獲得!! 決勝は独走できるか!?



予選3番手にはヨシムラの酒井大作が入った。



地元、そしてホームコースでの活躍が期待される柳川明は4番手からスタート

INFORMATION

大会記念公式プログラム オフィシャルショップで好評発売中!!



大会情報、レース情報が満載の公式プログラム。
この予選速報号と一緒に読めば、
レース観戦はバッチリ!!

<大会記念>
公式プログラム
1,000円(税込)



TIME TABLE

※タイムテーブルは、変更されることがあります。

10:10 -	ASIA UB115 コースイン〜選手紹介
10:25 -	ASIA UB115 決勝レース-2.....9Laps
11:10 -	ST600 コースイン〜選手紹介
11:25 -	ST600決勝レース.....16Laps
12:20 -13:10	ピットウォーク〜キッズパレード・ASIAエキスベリエンズ
13:25 -	ASIA SS600 コースイン〜選手紹介
13:40 -	ASIA SS600 決勝レース-2.....12Laps
14:35 -	JSB1000 コースイン〜選手紹介(セレモニー)
14:55 -	JSB1000決勝レース.....18Laps
15:55 -	GP125 コースイン〜選手紹介
16:10 -	GP125決勝レース.....14Laps
17:00 -	※レース終了後〜サーキットクルージング(2輪体験走行)

QUALIFYING PRACTICE REPORT



各クラスポールシッター。(左から)GP125徳留 真紀、JSB1000山口 辰也、ST600宮崎 敦。



Pole Position 山口 辰也 1'49.714

「予選は気温が上がらず、暑かった事前テストとは路面温度が違いすぎたので、セッティングも変更しなきゃならなかった。決勝も寒くなることを想定してセッティングを詰めていったので、このタイムにつながったんだと思います。オートボリスはコーナーが多くて楽しいし、自分好み。ライダーの腕が活かせるコースだと思う。でも僕のガンバリというより本田監督のアドバイスをやチーフメカニックの堀尾さんが作り上げてくれたバイクのおかげ。49秒前半は出したかったんですけど、目指していたタイムに届かなかったことが悔しい。ハルク・プロでは最高峰クラスでまだ勝ちがないので、(シーズンの) 早いうちにチームに優勝をプレゼントしたいですね」



●予選日: 天候 / 晴 路面 / ドライ
●決勝コースイン / 14:35 スタート / 14:55 (18周)

オートボリスでは初めてノックアウト方式で行われたJSB1000クラスの公式予選。ハルク・プロの山口辰也が、すべてのセッションでトップタイムをマーク、今回は完全に支配下に置いていると言っても過言ではない。特に第2ヘアピン後の最終セクションのコーナリングスピードは「圧巻」のひとつ。とにかくノレているのだ。5月12日(火)～14日(木)に行われた事前テストでは、気温も上がり、路面温度は約50度もあるコンディション。土曜日の公式予選は、路面温度は30度と打って変わっていた。他のライバルがタイムを縮めることができずにいる中、山口だけがコースレコードを更新する1分49秒714をQ3でマーク。そのQ3も赤旗中断があり、残り8分30秒で再開されてから記録されたものだった。「今回は走り始めからマシンがすごくいい。今年ハルク・プロに戻ってきて感じたのがチーム力の高さ。本田監督、チーフメカニックの堀尾さんと意見を重ねて、着実にレベルを上げ



※1中須賀克行は2列目5番グリッドからスタートする

ていけていることだね。だから、金曜日からいいタイムを出せるんだと思う」と山口。

一方、ディフェンディングチャンピオンの中須賀克行は、このコンディションに翻弄されてしまう。「事前テストと違うコンディションに合わせきれませんでした。作戦は全くないですね。2列目は想定内なのでスタートを決めて、(山口の) 前に出て全力でいってくださいね」と中須賀。事前テストでは中須賀も非公式ながらコースレコードを破っているだけに、決勝のコンディションとのマッチングによっては十分、山口に對抗できるはずだ。

山口と同じ、CBR1000RRを駆る伊藤真一も虎視眈々と優勝を狙っている。「第2戦鈴鹿の状況と比べれば、かなりまとまっている。まだ仕上がりのには7、8割と言ったところだけど、レースは何とかトップについていって、最後に勝負したいね」と伊藤。

3番手につけている酒井大作は「予選はいま一つ攻めきれなかった。ただ課題は見えてきているので、決勝朝のウォームアップでセッティングを詰めて勝負したいね」とコメント。今シーズンからフルモデルチェンジして登場したGSX-R1000K9だが、なかなか思うように仕上がっていないようだ。

そしてオートボリスと言えばカワサキのホームコース。エースライダーの柳川明も九州出身だけに燃えている。毎年、表彰台に上がるものの、あと一歩、優勝に届かないレースが続いているだけに「今年こそ」の思いは強いだろう。「今年になって抱えている問題が、なかなか直らない。それが直れば49秒台も出ると



2番手スタートの伊藤真一も優勝を狙う

思うんだけどね(笑)。ただ、その中でもアベレージは上がってきているし、オートボリスは応援してくれる人も多いので、そろそろいい思いをしたいよね」とオートボリス初優勝に向けて気合いを入れている。

同じく九州出身の大崎誠之は予選中にマシントラブルが発生し、不完全燃焼だったが、決勝に向けては明るい兆しだという。「アベレージも上がってきているし、気に入っているマシンも直るのでトップ争いに食らいついていきたい」と大崎。

山口がスタート前に出ることができれば、そのまま逃げる可能性が高いと言える。スタートダッシュに定評のある中須賀が、山口の前に出て抑えることができれば、伊藤、酒井、柳川、大崎によるトップグループが形成されるはずだ。

[佐藤 寿宏]

全日本ロードレース選手権

GP125 youth CUP に注目しよう!

若手育成プログラムとして、17歳以下(登録時)の選手を対象にGP125クラスに設定されている「ユースカップ」。今シーズンはスポット参戦を含め、全19名がエントリーしている。

第1戦筑波の決勝ではユースカップのライダーが4位から10位までを占めた。ここオートボリスでも、成長著しい若手ライダーの活躍に期待がかかる。

予選では2番手の篠崎佐助(15)、3番手の尾野弘樹

(16)ともに自己ベストグリッドを獲得している。「最後のアタックでクリアラップが取れていれば1分58秒台に入れる自信はあった。決勝はぶっちぎるつもりで勝ちを狙ってきます」と尾野は自信たっぷりにコメント。一方、オートボリスには苦手意識があるという篠崎もタイムは上々。結果を出してその感覚を払拭したいと目論んでいる。

今大会ではユースカップのライダーが初優勝を遂げる可能性も大きい。勢いタツプリの彼らの走り注目しよう!



予選3番手から勝ちを狙う、尾野弘樹

JSB1000 Class Starting grid

1 R 1'49.714 634 山口 辰也 Musashi RT/ハルクプロ	2 1'50.430 33 伊藤 真一 KeihinKoharaR.T.	3 1'50.505 39 酒井 大作 ヨシムラスズキwithJOMO
2 1'50.915 87 柳川 明 TEAM GREEN	5 1'50.948 1 中須賀 克行 YSP Racing Team	6 1'51.239 2 大崎 誠之 SP忠男レーシングチーム
3 1'51.692 51 高橋 英倫 TEAM GREEN	8 1'51.952 62 横江 竜司 RT森のくまさん佐藤塾	9 1'52.023 8 亀谷 長純 Honda DREAM RT 菅井ホンダ
4 1'52.789 77 井筒 仁康 TRICK☆STAR RACING	11 1'54.721 32 今野 由寛 MotoMap SUPPLY	12 1'54.731 27 西嶋 修 BEET RACING
5 1'54.607 44 児玉 勇太 ライダー-D.D.BOYS	14 1'54.777 18 東村 伊佐三 RS-ITOH&ASIA	15 1'54.795 83 須貝 義行 チームドゥカティレーシングジャパン
6 1'55.316 156 鈴木 大五郎 レーシングサブライ&Fヒロ	17 1'55.574 31 石川 朋之 Z-TECHwithヒジネスリアート	18 1'56.350 82 吉田 光弘 Honda緑陽会熊本レーシング
7 1'56.468 36 桐井 有希 BATTLE FACTORY	20 1'56.498 248 西 浩史 マルマエ&5ヘリテクス+24R	21 1'57.567 96 吉田 眞悟 佐世保レーシングプロジェクト
8 1'58.656 88 崔 東寛 ドリーム北九州・T Life	23 1'59.153 38 原田 洋孝 R.S.カレッジハラダ姫路	24 2'01.395 66 有田 裕二 シェイク&うかれ亭
9 1'58.694 55 山下 剛 ファクトリーヒロ&LS.com	26 2'00.062 84 玉田 耕司 東温モータース	27 2'03.224 81 廣崎 正彦 サセガ RP&SHIN RS

*R*マークは、コースレコードを更新しました。従来のレコードタイムは1' 50.058

史上稀に見る激戦区 ST600 を斬る

ST600 Battle of 2009

全日本一の激戦区ST600クラスは開幕戦とは全く違う流れとなっている。昨年もオートポリスでトップ争いを繰り広げた宮崎敦が、予選までは主役を演じている。開幕戦では予選でマシントラブルが発生し、後方のグリッドから追いつけたもののノーポイントという不本意な結果で終わった宮崎はオートポリスの事前テストから問題点を徹底的に洗い出し、マシンを仕上げてきた。予選を見てもマシンが安定しているのが、見て分かる。他のライダーが暴れている場面でも、その横を涼しい顔をしてスーッと通り過ぎていく感じだ。「タイムを狙おうと思えば狙えたと思う」と、予選ではコースレコードよりも、あくまで大事なのはレースでの結果と言わんばかり。「チーム体制も最小限、マシンも2007年型と型落ちだけれど、有力チームに勝つことができることを証明したいね」と自信のコメントを残している。

予選2番手につけたのがカワサキを駆るスペイン人ライダー、ペレ・リバだった。カワサキのテストライダーを務めており、その昔はノリックのチームメイトとして

WGPの500ccクラスを走っていた経験の持ち主。ワールドスーパースポーツでも活躍していただけに、レースをかき回す存在になるかもしれない。

今回は宮崎の仕上がりが群を抜いているが、ライバルも僅差で続いている。スタート直後の1コーナーのポジション取りが勝敗を分ける結果になる可能性は高い。序盤の混戦から抜け出していけるのは、果たして何台いるだろうか？



台風の目になるか？ レースでのペレ・リバの動きに注目

UB115

●決勝コースイン／10:10 スタート／10:25(9周)

SS600

●決勝コースイン／13:25 スタート／13:40(12周)

日本初アジアGP オートポリスで開催

アジア最大の国際選手権オートバイレースがアジアングランプリ(FIM ASIA ROAD RACING CHAMPIONSHIP)。マレーシア・インドネシア・インド・中国・日本のアジア主要国にてシリーズ展開され、Moto GPと同じくFIM(国際モーターサイクリズム連盟)が公認する国際選手権レース。

今回、初の日本大会がオートポリスで開催されることになった。開催クラスはメインカテゴリーである【SS600(SUPER SPORTS600cc)】、アジア市場で浸透している【UB115(UNDER BONE 115cc)】の2カテゴリーにて構成され、金曜日が公式予選、決勝レースはレース1が土曜日、レース2が日曜日にそれぞれで開催される。UNDER BONE(アンダーボーン)とは、読んで字の如く、フレーム全てがフロア下に収められているタイプのバイク。主にスクーターに使用されているフレーム形式だが、燃料タンクが通常の位置にないため、ニーグリップができず、独特なライディングが必要になる。インドネシアなどでは、アンダーボーン車を中心としたレース活動が盛んに行われている。

土曜日にはいずれのクラスも決勝レース1が開催された(UB115は第2ヘアピン手前でショートカットするコース)。

日曜日はUB115が10:25～、SS600が13:40からそれぞれ決勝レース2がスタートする。発展を続けるASEAN諸国から来日した、凄まじいまでのエネルギーと勢いに満ちているライダーたちの走りにも注目してみよう!



UB115(UNDER BONE 115cc)



SS600(SUPER SPORTS600cc)

ASIA SS600 決勝レース1公式結果

Pos	No.	Name	Team
1	24	Decha Kraissart	PETRONAS Sprinta Yamaha Thaila
2	65	Chalermpol Polamai	PETRONAS Sprinta Yamaha Thaila
3	3	Azlan Shah Kamaruzaman	PETRONAS Sprinta Yamaha Malays
4	52	Mohd Zamri Baba	PETRONAS Sprinta Yamaha Malays
5	2	Ahmad Fuad Baharudin	PETRONAS Sprinta Yamaha Malays
6	50	Ahmad Zamani Baharudin	AFY Racing Malaysia
7	18	Shogo Nishiyama	Honda Ryokuyoukai Kumamoto Rac
8	54	Sudarmono	PETRONAS Sprinta Yamaha Indone
9	27	Harlan Fadillah	PETRONAS Sprinta Yamaha Indone
10	33	Chow Ho Wan	AKI Carbon Yamaha Racing
11	12	Preetham Dev Moses	Red Rooster Racing
12	53	Chanon Chumjai	Thailand Yamaha Racing
13	72	Lee Ching Hooi	AFY Racing Malaysia
***** 以上チェッカー *****			
14	15	Kouji Tamada	TOON MOTORS with J-TRIP



●予選日:天候/晴 路面/ドライ
●決勝コースイン/15:55 スタート/16:10(14周)

POLE POSITION INTERVIEW

徳留真紀、開幕戦に続いて連続ポール獲得。
ユースの二人が続く!



Pole Position 徳留 真紀 1'58.656

『予選では事前テストに比べると、スタッフが頑張ってくれたおかげで車体のフィーリングがよかった。すぐにタイムを出すことができたし、タイヤも変えずに決勝を想定したセットアップをしながら最後の攻撃で自己ベストを出すことを出すことができた。チームメイトの(篠崎)佐助も調子がいいので1-2フィニッシュができれば最高だね』

GP125 公式予選結果

Pos	No.	Name	Time	Team
1	2	徳留 真紀	1'58.656	チーム テック・2
2	68	篠崎 佐助 Y	1'58.787	チーム テック・2
3	3	尾野 弘樹 Y	1'59.191	BATTLE FACTORY
4	1	菊池 寛幸	1'59.689	チームウイリー
5	11	矢作 雄馬	1'59.862	桶川塾&ENDURANCE
6	55	岩田 裕臣	2'00.131	DyDoミウレーシングチーム
7	48	浦本 充亮 Y	2'00.160	TEAM IRONBARONS
8	5	山田 亮太	2'00.210	TEAM PLUS ONE
9	8	日浦 大治朗 Y	2'00.414	Team NOBBY
10	12	仲城 英幸 P	2'00.495	Projectu7c HARC
11	6	柳沢 祐一	2'00.516	18 GARAGE RACING TEAM
12	15	古市 右京	2'00.619	TEAM ASPIRATION
13	41	宇井 陽一	2'00.759	41PLANwithSpruce/RT
14	16	鎌田 悟	2'00.840	ENDURANCE+桶川スポーツランド
15	91	森 俊也 Y	2'00.997	racing sayama
16	26	榎藤 俊光	2'01.181	BATTLE FACTORY
17	24	中本 翔 Y	2'01.316	18 GARAGE RACING TEAM
18	19	今中 満	2'01.521	team RISKY
19	20	大久保 光 Y	2'01.534	18 GARAGE RACING TEAM
20	77	安村 武志 P	2'01.592	チーム テック・2
21	13	山田 誓己 Y	2'01.722	伊藤レーシングGMDスズカ
22	44	岩田 吉正	2'01.918	BATTLE FACTORY
23	34	日浦 徹 Y	2'01.927	Team NOBBY
24	51	藤井 謙汰 Y/P	2'01.938	TSR
25	45	長島 哲太 Y	2'01.958	TeamProjectu 7C
26	63	石崎 司也 Y	2'02.183	18 GARAGE RT たかだ農園
27	17	天野 邦博	2'02.338	Honda狭山レーシングチーム
28	50	尾野 都司 Y	2'02.556	BATTLE FACTORY
29	72	濱原 颯道 Y	2'03.823	桶川塾&ENDURANCE
30	47	福島 宏幸	2'04.152	team RISKY
31	52	大塚 浩二	2'04.570	TEAM
32	21	村田 憲彦	2'06.173	CLUB Y's★J-OFFICE
33	31	川瀬 和希	2'06.736	CLUB Y's★J-OFFICE

***** 以上予選通過 基準タイム (2'10.521 - 110%) *****

※Yは2009年ユースカップ登録者、Pはプロト車両



●予選日:天候/晴 路面/ドライ
●決勝コースイン/11:10 スタート/11:25(16周)

POLE POSITION INTERVIEW

唯一1分55秒台を叩き出した宮崎敦が
トップグリッド!



Pole Position 宮崎 敦 1'55.957

『事前テストから順調にマシンは仕上がってきているね。タイムが上がってくると問題が出るので無理してタイムアタックはしなかった。一発タイムならば、あとコンマ5秒は詰められたと思うけれど(タイムを詰めても)ポールポジションは変わらないし、大事なものは決勝だからね。何とか予選と同じポジションでゴールしたいね』

ST600 公式予選結果

Pos	No.	Name	Time	Team
1	72	宮崎 敦	1'55.957	TEAM DAYTONA
2	70	Pere Ribá	1'56.472	Vamos ZX-6R
3	73	小林 龍太	1'56.825	Musashi RT/ハルクプロ
4	48	手島 雄介	1'56.894	TSR with ALT
5	14	岩田 悟	1'56.902	TSR
6	49	渡辺 一馬	1'57.010	TEAM PLUS ONE
7	76	関口 太郎	1'57.027	Team TARO&PLUS ONE
8	7	武田 雄一	1'57.283	HitMAN RC甲子園ヤマハ
9	55	國川 浩道	1'57.375	DyDoミウレーシングチーム
10	4	稲垣 誠	1'57.395	バーニングブラッドRT
11	634	小西 良輝	1'57.406	Musashi RT/ハルクプロ
12	38	中富 伸一	1'57.429	HitMAN RC甲子園ヤマハ
13	26	東浦 正周	1'57.502	プラスミューレーシングチーム
14	6	野田 弘樹	1'57.648	テルル ハニービーレーシング
15	11	寺本 幸司	1'57.722	PLOT FARO バンテラ
16	83	眞子 智実	1'57.755	Team Kiyo&PS-K
17	10	高橋 江紀	1'57.773	KeihinKoharaR.T.
18	81	佐藤 裕児	1'57.775	YSP Racing Team
19	8	出口 修	1'57.776	PLOT FARO バンテラ
20	45	D. Kraissart	1'57.884	Petronas Yamaha Thailand R.T.
21	46	C. Polamai	1'57.986	Petronas Yamaha Thailand R.T.
22	9	生形 秀之	1'58.039	エスバルドリームレーシング
23	19	佐竹 隆幸	1'58.185	チームOSG&モトスポーツ
24	16	清水 直樹	1'58.354	RS-ITOH&KAZE
25	32	大栗 竜也	1'58.365	伊藤レーシングGMDスズカ
26	15	津田 拓也	1'58.642	チームOSG&モトスポーツ
27	22	中山 真太郎	1'58.972	KoharaRC
28	47	濱本 裕基	1'59.005	SP忠男レーシングチーム
29	44	斉藤 一輝	1'59.040	ウイングジョイR.C
30	39	新庄 雅浩	1'59.140	RT優匠ピストンズ
31	25	川原 英美	1'59.492	G-TRIBE Racing
32	63	田中 浩哉	1'59.647	Team モトボー
33	54	井上 哲悟	1'59.670	GRACERACINGTEAM
34	705	黒川 武彦	1'59.777	松本クリニックVIPスピード
35	59	荒瀬 貴	1'59.824	K-FACTORY
36	42	岡崎 晋也	1'59.960	TeamGTMM ATOMIC
37	64	柚木 才	2'00.254	MOTO WIN RACING
38	35	近藤 湧也	2'00.268	GRACERACINGTEAM
39	41	秋谷 守	2'00.341	K-max Racing
40	67	太田 達也	2'00.347	Team能塚&R.P. WITH
41	43	小田 茂昇	2'00.420	エスバルドリームレーンジャー
42	82	原田 武人	2'00.563	ZAP Racing823

***** 以上予選通過 基準タイム (2'07.552 - 110%) *****



●予選・決勝開催日/5月23日(土)
●天候/路面/予選・決勝(晴/ドライ)
●決勝レース/7周

RACE RESULT

4台による激しいバトルを制した花房一樹が全日本初優勝!!



ポールポジションからスタートした花房一樹がホールショットを奪い、レースは序盤から小室旭、中木亮輔、藤井謙汰を含む4台がトップグループを形成。何度もポジションを入れかえる激しいバトルが展開される。最終ラップでトップに立っていた花房は第2ヘアピンで中木にかわされてしまうが、すぐにポジションを奪い返し、うれしい全日本初優勝を飾った。小室が2位、藤井が3位で表彰台に上がった。2番手を走っていた中木は最終コーナーでハイサイドを起こしコースを飛び出してしまうが、4位でゴールした。

4台によるセカンドグループもし烈な争いとなっていたが、谷川壮洋が後続を抑えきり5位でチェッカー。丸山美由貴、小畑仁、星野知也が僅差で続いた。

ランキング争いはトップの小室に花房が2ポイント差で肉薄。藤井が3番手、女性ライダーの丸山美由貴が4番手に浮上している。

WINNER 優勝/花房 一樹

『初優勝なのでとにかくうれしいです。スタートはうまくいったけれど、ペースがつかめないうちに何台かに抜かれてしまい、あとは出たところ勝負だと思った。最終ラップで一度中木さんに抜かれたが、周回数を間違えていて、次の周で抜けたいと思っていた。でも、すぐに前に出ることができ、コントロールラインに戻ったらチェッカーフラッグが振られていたので、ラッキーな優勝でした。チャンピオンが目標なので、今後も取りこぼしのないように頑張ります』

GP-MONO 決勝レース結果

Pos	No	Rider	Team	Lap	Total Time
1	87	花房 一樹	テック・2&nynsan.com	7	14'29.776
2	11	小室 旭	TeamKOMUROwithHARC	7	14'30.320
3	3	藤井 謙汰	TSR	7	14'30.431
4	4	中木 亮輔	オールスターモータースポーツ	7	14'31.521
5	6	谷川 壮洋	TEAM PLUS ONE	7	14'32.333
6	66	丸山 美由貴	オールスターモータースポーツ	7	14'32.525
7	13	小畑 仁	MOTO WIN RACING	7	14'32.612
8	46	星野 知也	ミクニBeat 4413	7	14'32.861
9	30	矢田 栄一朗	MOTO BUM HONDA	7	14'43.617
10	20	山本 恭裕	広島カジタRacing&LRC	7	14'46.088
11	57	高木 伸一	ドリーム北九州・T Life	7	14'46.324
12	35	渡辺 陽向	TeamProjectu 7C	7	14'46.734
13	5	岡田 義治	MR.F.RH松島&田中製作所	7	14'52.625
14	19	山田 俊樹	MR.F.RH松島&田中製作所	7	14'52.706
15	58	松井 洪弥	TEAM PLUS ONE	7	14'52.905
16	28	吉道 竜也	テルル・ハニービーレーシング	7	14'53.071
17	16	赤間 清	CLUB HARC-PRO.	7	14'53.225
18	21	江崎屋 歩	プリミティブ&nysusan.com	7	14'53.354
19	18	根村 拓	18 GARAGE RACING TEAM	7	14'57.540
20	25	高瀬 敬次	Gyueeeen マックウエスタン	7	14'57.836
21	7	比企 徹	レーシングサブライム勸業	7	14'58.301
22	88	植田 智広	ドリーム北九州・T Life	7	14'58.605
23	49	萩原 洋	RT☆グローリーベア&ENG林	7	14'58.733
24	37	坪川 浩明	TEAM-MARGUERITE	7	15'00.983
25	54	中村 正秀	ヒガシEng&九州工業大学	7	15'12.391
26	72	岩本 有司	銀色バイク+Kfb	7	15'13.031
27	47	今村 洋介	チームいずみ&Nothing	7	15'15.185
28	34	畑中 要	FTF・ダイナビ・Big☆敦	7	15'15.209
29	51	堀田 顕也	クラブM+松田塾+翔RT	7	15'15.377
30	22	川野 泰成	新日本エナジー/プリミティブRT	7	15'15.764
31	32	楠元 晃一	Garage130R&Jr's	7	15'15.861
32	52	宇野 恒	チームいずみ&小倉熊谷郵便局	7	15'26.759
33	55	濱崎 拓	ドリーム北九州・T Life	7	15'51.643
34	50	田邊 成章	ガレージ☆ミント&RCサクセス	7	16'13.445

***** 以上チェッカー *****